

## 「小豆島の果樹を考える会」を実施

▼発生年月日：2023/3/10

▼執筆者名：掛鯛 吉洋

▼センター名：小豆農業改良普及センター

▼部門分類：その他作物

▼活動分類：総括

▼公開：公開

▼備考：

▼本文

1) 3月10日、小豆島町ふるさと荘において、当普及センターの主催により、島内の果樹・オリーブ生産者や関係者を対象に「小豆島の果樹を考える会」を開催しました。

2) 当日は、管内の生産者や関係機関からあわせて47名が出席し、JA香川県本店園芸指導課病害虫専任指導員 渡邊丈夫氏による「果樹栽培における農薬の効率的な使い方」についての研修、かつて、本県農政水産部次長として3年間在籍経験のある公益財団法人中央果実協会副理事長 菱沼義久氏による「果物による好循環の構築」についての講演を行いました。

3) 研修では、作用性の異なる薬剤を組み合わせたローテーション防除の大切さと農薬の選定、効率的な防除方法等について説明がありました。また、講演では、果樹を取り巻く情勢は厳しいとしたうえで、後継者が安心して継承できる取り組みや循環型農業に対応した取り組みを他県の事例などを交えながら、その重要性について訴えられました。

4) 質疑では、「オリーブ炭疽病の特効薬の開発」や「後継者がいなくて心配」などの質問があり、特効薬については、渡邊氏より、開発するのはあくまでメーカーであるとしたうえで、「JA香川県や県は、効果のある既存農薬の現地試験を行い、オリーブへの登録拡大がしやすいよう支援している。」と説明されました。また、後継者問題については、菱沼氏より、「個人での取り組みには限界があるため、産地全体で検討できるようリーダーや担い手を育成して、優良農地の確保をみんなで補完し合う仕組みづくりが大切である。」とアドバイスするなど、熱心な討議が行われました。

5) 当普及センターでは、新型コロナウイルス感染症対策が緩和されたことから、今後も、機会があればこのような会議を開催し、産地の活性化を図ってまいります。



研修会の様子



果物PR用のハッピーを着て熱弁する菱沼副理事長